

「学長のことば」

2023年3月17日

中野 敬一

本日、神戸女学院大学をご卒業、大学院をご修了される皆さん、おめでとうございます。また、オンラインを通じてこの式を見守ってくださっているご家族・ご関係の皆様、心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さんは日々研鑽を積み、学びの成果を収められ、この場所から社会に出て行かれる日を迎えられました。とくに新型コロナウイルス感染症による様々な制限や対応で多くの時間と労力を費やすなかで目標を達成されたのです。その努力を心より称えます。

コロナによるパンデミックは私たちの生活を大きく変えました。感染の不安や先の見えない苛立ちを感じる日々を過ごしてきましたが、ようやく収束に向かおうとしています。なお予断を許さない状況であるという専門家の意見もありますが一応の区切りを迎えることになりました。

ただし、今後も同じようなことが起こりうる可能性は高いでしょう。さらに感染症のようなものではなくても、たとえば、DX や AI などの進歩によりものごとの見方や考え方の枠組みが大きく変更するとも言われています。

つまり、これからの時代はますます予測不可能であり、どのような社会が形作られていくのかも不明だと言えます。けれども変わらないものがあるはずです。どのような時代においても変わらない普遍的なものがある。人にとって最も大切なもの、それは「愛」であると聖書は教えています。とくに困難な状況においては「愛」の働きが重要になります。

神戸女学院の学院永久標語「愛神愛隣」について皆さんは何度も耳にしてこられたと思います。神を愛し、隣人を愛しなさい。これがキリスト教の教えを端的に表す言葉です、「キリスト教主義教育」というのは、この教えに基づく人格を養成し、世に送り出すという目的で行われています。本日、神戸女学院大学は、皆さんを「愛神愛隣」の精神の「担い手」として、世に送り出すのです。

本学の創立者であるイライザ・タルカット、ジュリア・ダッドレーの両宣教師が来日されたのは 1873 年のことでした。ちょうど 150 年前になります。お二人が日本にこられたのは、明治の初期、鎖国から開国して間もない時期でした。宣教師の先生方は、見知らぬ日本という国を助けたいという思いでアメリカを出発されました。そして初めて出会った神戸

の女子のために学校を創り、この国の女性の教育のために力を尽くされました。宣教師を送り出したアメリカン・ボードの人々も日本のことをよく知っていたわけではありません。けれども宣教師の報告を受け、見知らぬ隣人のために資金を送り続けてくださいました。

さらに神戸女学院が神戸からこの岡田山に移転してきたときには、このキャンパスを造るためにアメリカの教会の人たちが献金を集めてくださいました。出会ったこともなく、顔も知らない日本の女子の教育のために捧げてくださったのが本学の建物です。

皆さんが学ばれたこの大学には、多くの人の祈り、そして愛が満ちています。まさに無償の愛という美しいものが、このキャンパスのもつ美しさです。その与えられた愛がまた愛を生むことを繰り返し、今日までこの学院の教育は続けられてきました。

皆さんは神戸女学院大学の教育を通じて専門性を高め、多様性に触れ、大切な精神が養われたお一人おひとりです。それぞれに撒かれた種が成長を続け、大きく花を開かせて実を結ばれる時が来ることを期待しています。その時がいつであるかは人によって異なりますが、神様が成長させてくださりその日が来ることを信じています。

どうぞお元気でお過ごしください。いつでも母校に帰ってきてください。ここは皆さんが帰ってこられる場所です。学生時代を思い出し、自分を整え直す場所にもしてください。神戸女学院大学はこれからも皆さんを応援しつづけます。皆さんのうえに、またご家族・ご関係の皆様には神様の祝福が豊かにありますようお願いし、私からのことばといたします。